

【2次評価】評価点一覧

参考資料

|    |        | 1. システム運用状況に対する評価             |                      |                          |                                |      |
|----|--------|-------------------------------|----------------------|--------------------------|--------------------------------|------|
| 氏名 | 評価項目   | 温室効果<br>ガス排出量<br>エネルギー<br>使用量 | 廃棄物<br>紙資源<br>グリーン購入 | エコオフィス<br>活動（共通の取組<br>み） | エコオフィス活動<br>（施設を管理の部署<br>の取組み） | 内部監査 |
|    |        | 評価点                           | 評価点                  | 評価点                      | 評価点                            | 評価点  |
|    | 松波 淳也  | 3                             | 3                    | 4                        | 4                              | 4    |
|    | 奥 真美   | 3                             | 3                    | 4                        | 4                              | 4    |
|    | 斉藤 崇   | 3                             | 2                    | 4                        | 4                              | 4    |
|    | 須永 文雄  | 4                             | 3                    | 4                        | 4                              | 4    |
|    | 斎藤 之良  | 3                             | 2                    | 4                        | 4                              | 4    |
|    | 越智 尊恒  | 4                             | 3                    | 4                        | 5                              | 4    |
|    | 多久島 俊昭 | 4                             | 4                    | 5                        | 5                              | 4    |
|    | 小池 紀子  | 3                             | 3                    | 5                        | 5                              | 4    |
|    | 葉澤 則子  | 4                             | 4                    | 4                        | 4                              | 4    |
|    | 平均点    | 3.4                           | 3.0                  | 4.2                      | 4.3                            | 4.0  |
|    | 最高点    | 4                             | 4                    | 5                        | 5                              | 4    |
|    | 最低点    | 3                             | 2                    | 4                        | 4                              | 4    |

1. システム運用状況に対する評価（エネルギー等の実績、環境活動状況、是正対応、等）

| 評価項目               |                | 2次評価   |  |   |     |
|--------------------|----------------|--------|--|---|-----|
| 区分                 | 評価対象(例)        | 平均点    | 評価意見   | 最高点   | 最低点 |
| 温室効果ガス排出量・エネルギー使用量 | 目標達成状況・経年変化状況  | 3.4    | <p>(松波委員)<br/>温室効果ガス排出量については、排出係数の変更による変動が大きくなりすぎてしまう。エネルギー消費量が判定する方が望ましいと思われる。</p> <p>(奥委員)<br/>○昨年度から、電力調達において競争入札を導入している施設では、環境省が示す排出係数の代替値未満の事業者であることを入札参加条件としたことは、電力使用にともなうCO2排出量の削減を図るうえでこれまでからのさらなる前進として評価できる。<br/>○しかしながら、契約時では落札事業者の排出係数が代替値未満であったとしても、後に落札事業者の当該年度の排出係数最新値が代替値を上回ってしまう結果となっているケースがみられ、結果的に当初の期待どおりにはCO2排出削減につながっていない状況がある。こうしたケースを改善していくためには、環境配慮促進法のもので電力供給契約について導入されているように、契約時点での排出係数に加えて、未利用エネルギーの利用状況、再エネ導入状況等の要素の評価点と価格点とを総合評価するような仕組みを検討する余地がある。少なくとも電源構成と再エネ導入状況は、事業者の排出係数を左右する重要な要素であるため、しっかりと見たほうがよいと思われる。<br/>○町田市では電力調達に係る環境配慮契約のあり方を検討した際、競争入札導入施設と随意契約導入施設とで同じ考え方とすることを前提として、まずはCO2排出係数のみを基準として方法を採用したとのことである。少額契約の施設は競争性に乏しく随意契約にならざるを得ないことは理解できるが、そもそも競争入札と随意契約とで同じ考え方に立たなければならぬ理由が理解できない。<br/>○少なくとも随意契約が可能な施設については、電力調達における環境配慮契約をさらに進化させる余地があると思われる、そこに期待したい。</p> <p>(斉藤(崇)委員)<br/>・電気使用量、都市ガス等使用量、灯油等使用量は減少しているが、温室効果ガス総排出量は前年より増えており、基準年と比較しても微減でしかない。都市ガス等は基準年よりも2割以上増えており、もう少し取り組みを進めていく必要があるように感じる。<br/>(須永委員)<br/>2021年度の目標数値とはまだ乖離があるが、電気やガス等のエネルギー使用量の削減を精力的に進めており、またCO2排出係数の低い電力会社と契約するなど、高い「温室効果ガス排出量の削減意識」を持ちながら進めている。</p> <p>(斎藤(之)委員)<br/>中長期的な目標に対して達成の目途が十分に立っているとは思えない。全体システム的な改善・投資と各部門、個人など層別化した取り組みが引き続き求められる。<br/>(越智委員)<br/>契約時と排出係数が変わってしまった為、使用量が削減されても結果CO2排出量が増えてしまった。契約をより適切な方法で行えるよう考慮して頂きたいと思います。</p> <p>(多久島委員)<br/>・目標達成状況については、温室効果ガス排出量及びエネルギー使用量は共に削減されていることが実証されている。また、目標達成に向かっての経年変化状況は劇的な進展は難しいが良好な方向にいますので、この状況で継続していくことが必要です。よって概ね評価できる。<br/>(小池委員)<br/>目標達成、経年変化ということでは、なかなか劇的な進展はむずかしいようにも思われる。<br/>(葉澤委員)<br/>目標達成に向けての評価はできる。ただまだ改善の余地はありそうです。</p> | 4   | 3   |
|                    | 廃棄物・紙資源・グリーン購入 | 経年変化状況 | 3.0  | <p>(松波委員)<br/>システム変更のため、経年比較はできないが、実地調査での情報も含めた総合的判断から、昨年と同等レベルとの判断での評価をした。</p> <p>(奥委員)<br/>○新たな財務会計システムの導入により、基礎となるデータの集計方法が従来から変更になっている部分があるが、そうすると経年変化の把握や国・他自治体との比較が出来なくなるといった重大な問題が生じてしまう。いままら指摘しても致し方ないことではあるが、財務会計システム構築の際にこうした支障が生じないように配慮すべきであった。財務会計システムの導入には、EMSの運用成果を把握・検証するうえで、データ集計の効率化と労力の低減を図りつつ、正確かつ迅速なデータ収集を可能にするというメリットが期待されることであるが、これまで把握できていたデータの一部分が抜け落ちてしまうという点については、EMSの運用実態の全体像を正確に把握できなくなってしまうことを意味する。<br/>○次期システム更新の際には、データ集計の容易性に加えて、網羅性・正確性を十分に踏まえた対応が図られることを期待する。</p> <p>(斉藤(崇)委員)<br/>・廃棄物排出量が未計上施設のある状態が増加している。建て替え等による大量廃棄の発生によるものであるが、再利用率も前年に比べて大幅に低下していることを踏まえると、さらなる取り組みが必要であると考え。<br/>(須永委員)<br/>廃棄物量については特殊要因により増加しているものの、紙資源については、冊子の印刷数縮減やタブレットを使用した電子会議の普及などにより大きく削減されていることを評価したい。なおグリーン購入については、集計単位が変更になった(数量から件数)ため、定量的な評価は難しいが、新システム導入により事務方の労力が軽減されるのであれば、今後も持続的に環境マネジメントシステムを継続していくには、望ましいと考える。</p> <p>(斎藤(之)委員)<br/>昨年に比べ評価を厳正化した。内的活動が不備ということではなく、マイクロプラスチックの海洋汚染や紙資源不足など環境問題の顕在化により外的環境が相対的に一層厳しくなっているため。<br/>(越智委員)<br/>新しい財務会計システムによる購入において、滞りなく継続して物品購入が行われることを望みます。</p> <p>(多久島委員)<br/>・廃棄物排出量は施設の建て替え設備の入れ替え等で変化することは致し方ないので、再利用の方法をわずかでも考慮・改善するよう取り組みを期待します。<br/>・紙資源使用料及び購入量も基準年度より大幅に削減されているし、また、再利用も工夫されている。よって概ね評価できる。グリーン購入達成率アップも、調達方針も統一されて、より効果が期待される。<br/>(小池委員)<br/>紙資源、グリーン購入については、2018年から集計方法が変わったということで、評価対象である「経年変化状況」は評価不能である。</p> <p>(葉澤委員)<br/>システムの変更があり数字だけでは判断できないが、個別では目標達成に向けての評価はできる。</p> | 4   |

1. システム運用状況に対する評価（エネルギー等の実績、環境活動状況、是正対応、等）

| 評価項目              |                 | 2次評価 |   |     |     |
|-------------------|-----------------|------|---|-----|-----|
| 区分                | 評価対象(例)         | 平均点  | 評価意見  | 最高点 | 最低点 |
| エコオフィス活動（共通の取り組み） | 各職場における活動状況評価   | 4.2  | <p>(松波委員)<br/>実地調査での情報も含めた総合的判断から、概ねよくできていると評価できる。</p> <p>(奥委員)<br/>OP21の「低評価の要因・取組みの課題」の記載において、要因が十分に説明されていない部分がある。たとえば、「こまめに消灯することが徹底できなかった」、「複合機からの印刷使用枚数が、対前年度で若干増加(105%)してしまった」、「ごみの分別が不十分であり、特に教室での分別の啓発をしていきたい(学校での取組)」は、なぜそうした事態が生じたのかの要因が示されていない。<br/>○今後は、要因分析を含めて、さらなる改善につながるような記載がなされるように、各職場に共通認識をもってもらう必要がある。<br/>○空調、急騰の適正使用、分別・資源化といった項目の場合、各課で管理がなされているわけではないことから、課単位で取組みを評価することが妥当なのかが疑問である。部もしくはフロアー単位で評価するほうが合理的ではないか。</p> <p>(斎藤(崇)委員)<br/>・概ねよくできていると思う。</p> <p>(須永委員)<br/>昨年度に引き続き評価が高く、また昨年度の現地確認を踏まえると、評価する環境推進員は、概ね客観的な評価をしているものと考えられる。</p> <p>(斎藤(之)委員)<br/>概ね良好な取組がされている。地道な活動と同時にペーパーレス化など大枠での検討も進めてほしい。</p> <p>(越智委員)<br/>出来なかった場合にPDCAを行えるよう、システムを見直して頂きたいと思います。</p> <p>(多久島委員)<br/>・エコオフィスの共通の取り組みは、細部に計画、工夫が見られ、各員が真剣に取り組んで効果をあげている。</p> <p>(小池委員)<br/>取り組みについては、継続し、工夫を重ねていることを評価したいと思う。</p> <p>(葉澤委員)<br/>評価はできるので、今後は習慣づけて継続できるかだと思います。</p> | 5   | 4   |
|                   | (施設を管理の部署の取り組み) | 4.3  | <p>(松波委員)<br/>実地調査での情報も含めた総合的判断から、概ねよくできていると評価できる。</p> <p>(奥委員)<br/>OP21に、実施率が低かった項目は「昼休み時の照明消灯の実施、採光を利用した消灯の実施」だったとあるが、これらの項目は公共施設や教育施設において実施率が低い傾向がみられる。こうした施設においては、そもそもこれらの項目の徹底を図ろうとすること自体、困難もしくは不適切なものではないか。</p> <p>(斎藤(崇)委員)<br/>・概ねよくできていると思う。継続的な改善という点で言えば、各部署の取り組みについて、○から×になったところ、あるいは×から○になったところ、などどのような変化があったのかが分かると良い。</p> <p>(須永委員)<br/>一部未実施があるものの、概ね「エコオフィス」を意識し、施設を管理しているものと考えられる。</p> <p>(斎藤(之)委員)<br/>同上。継続的な活動が緩みやすい場合もあり得るので、経時的な監視も必要である。</p> <p>(越智委員)<br/>部署単位になっているが、庁舎ではフロアー単位での取組み(結果)でよいのではないかと思います。</p> <p>(多久島委員)<br/>・施設管理する職場においての設備等の適正管理は、現場検査を行った範囲では、日常運用及び定期点検等は管理者、担当職員が活動している評価ができる。</p> <p>(小池委員)<br/>施設の個々の状況の違いがある中で、それぞれができることを見つけて取り組んでいると思う。ただ、外から見て足りない点を提案していくことは必要と思われる。評価というよりは、外からの目ということで、参考にしていってほしい。</p> <p>(葉澤委員)<br/>施設により状況が違うが、評価できる。</p>   | 5   | 4   |

1. システム運用状況に対する評価（エネルギー等の実績、環境活動状況、是正対応、等）

| 評価項目         |                      | 2次評価 |  |     |     |
|--------------|----------------------|------|--|-----|-----|
| 区分           | 評価対象(例)              | 平均点  | 評価意見   | 最高点 | 最低点 |
| 内部<br>監<br>査 | 監査内容<br>監査結果<br>是正対応 | 4.0  | <p>(松波委員)<br/>不適合が出ていること自体は問題であるが、それは内部環境監査が適切に機能していることの証左でもある。是正対応も迅速になされていることは評価できる。</p> <p>(奥委員)<br/>○市として全部署共通の「2019年度 環境法令遵守チェックシート」を作成して、各部署で遵守状況の確認をするようにしたことは、昨年度からの前進である。<br/>○内部環境監査の結果を受けて、監査対象となった部署にとどまらず、全庁的に指示をし、是正対応を図っている場合には、そのことが分かる記載を監査結果報告書なり実績報告書なりにしておいたほうが良い。<br/>○内部環境監査において不適合となった3件のうち2件は、廃掃法で義務づけられているマニフェスト交付状況報告を怠っていたという法令違反の事案であり、担当者の認識不足では本来済まされない問題である。これら事案は氷山の一角であるかもしれないが、他にも同様の違反が放置されていないか、改めて全庁的に確認すべきだと思われる。<br/>○廃掃法違反事案が発見されたことは、内部環境監査がしっかりと機能していることを示した反面、同法以外の環境関連法令の遵守状況に不安を抱かせる結果となっている。部署や施設ごとに適用法令は異なってくることから、今後は部署や施設の活動に応じた環境法令リストを部署や施設ごとに整備していく必要があるのではないか。</p> <p>(斉藤(崇)委員)<br/>・不適合の事例について、全庁的な確認を促す取り組みがおこなわれており、また厳しい内部監査を実施している点は評価できる。</p> <p>(須永委員)<br/>改善事項や不適合が散見されているが、その後のフォローアップ監査により速やかに改善されているほか、不適合が昨年度に対し大幅に減少している。<br/>なお、内部環境監査については、身内に対しての監査にもかかわらず厳格に審査しており、システムとして適正に機能している点を大いに評価したい。</p> <p>(斎藤(之)委員)<br/>良好な取り組みがされていると感じられるが、法令順守の問題など一部に課題があり、早急に改善する仕組みがほしい。</p> <p>(越智委員)<br/>引き続き高いレベルでの監査を実施して頂きたいと思います。</p> <p>(多久島委員)<br/>・指摘事項は順次改善されて是正措置されていることは概ね評価できる。また、情報及び法令遵守に対する指導等は全部署に共有して適合するよう徹底することを望む。</p> <p>(小池委員)<br/>是正が必要な施設が多かったことには正直驚いたが、改善されていることには評価したい。</p> <p>(葉澤委員)<br/>職員の意識が出来てきているので、改善する努力も含め評価できる</p> | 4   | 4   |